

鹿児島県におけるカスミサンショウウオ (*Hynobius nebulosus*) の分布について

中間 弘

The distribution of *Hynobius nebulosus* in Kagoshima Prefecture

Hiromu NAKAMA

はじめに

鹿児島県内におけるカスミサンショウウオの分布については、本館研究報告第25号（2005）に詳しく述べたところであるが、現在の生息域は出水平野に限られている。出水市高尾野町浦を東端に、出水市高尾野町内野之下、出水市野田町下名、阿久根市鶴川内などをとおり、阿久根市筒田が生息の西限となっていた。これら棲息地のほとんどは、出水平野南側に連なる紫尾山系の山裾に位置し、丘陵地から水田など止水がある部分になだらかにつながっている場所である。これまで更に分布調査を行って新たな棲息地が確認できたので、追加して報告する。

1 平成19年の調査

前回の調査報告は、平成18年1月までの調査結果を記載したところであるが、それ以降も産卵状況と幼生の生息状況の調査を継続した。調査日、調査参加者、調査地点及び調査結果は次のようであった。

(1) 平成19年1月20日

調査者：中間弘，渡辺剛（城西中学校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市高尾野町内野々下：成体2匹（♂1，♀1），卵のう14個（産卵直後3，桑実胚1，神経胚後期6，尾芽胚中期2，尾芽胚後期2）発見
- ・出水市高尾野町野添：卵のう2個（神経胚後期2）発見
- ・出水市高尾野町浦：成体2匹（♂1，♀1），卵のう2個（産卵直後1，神経胚後期1）発見
- ・阿久根市大下：成体2匹（♂1，♀1），卵のう11個（産卵直後1，原腸胚2，神経胚後期2，尾芽胚初期2，尾芽胚後期4）発見
- ・阿久根市桑原城：成体3匹（♂3），卵のう3個（産卵直後1，神経胚初期1，尾芽胚後期1）発見

(2) 平成19年2月6日

調査者：本田法玄，入江正章，古賀正興，柴田真

彰（出水商業高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市上中 <発見なし>

(3) 平成19年2月7日

調査者：本田法玄，大平翔陽，坂上陽輔，柴田真

彰（出水商業高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市栗毛野 <発見なし>
- ・出水市上中 <発見なし>
- ・出水市上谷池 <発見なし>
- ・出水市清水 <発見なし>

(4) 平成19年2月9日

調査者：本田法玄，大平翔陽，古賀正興，柴田真

彰，渡辺泰史（出水商業高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市武本 <発見なし>
- ・出水市小原上 <発見なし>

(5) 平成19年2月24日

調査者：本田法玄（出水商業高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市宇都野々 <発見なし>

(6) 平成19年5月16日

調査者：中間弘，佐藤眞一，日野勝徳（大分）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市高尾野町内野々下：幼生7匹発見
- ・出水市高尾野町野添：幼生7匹発見
- ・出水市高尾野町内野々上：幼生11匹発見

(7) 平成20年1月4日

調査者：神信裕（野田女子高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市野田町 <発見なし>

(8) 平成20年1月19日

調査者：中間弘，渡辺剛（城西中学校），神信裕（野田女子高校），本田法玄（出水商業高校），松本勇二（垂水高校），堀田豪（第一鹿屋中学校），鶴重裕子，原口優子，

有村直美（クレインパークいずみ）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市高尾野町内野々下：成体2匹（♂）、卵のうち6個（胞胚2，原腸胚後期4）発見
- ・出水市高尾野町野添：卵のうち4個（原腸胚後期）発見
- ・出水市高尾野町内野々上：成体3匹（♂）、卵のうち10個（産卵直後6，原腸胚後期4）発見
- ・出水市下鯖淵口当 <発見なし>
- ・出水市高尾野町江内 <発見なし>
- ・阿久根市脇本木場仁田 <発見なし>
- ・阿久根市脇本黒之上 <発見なし>
- ・阿久根市脇本深田 <発見なし>

(9) 平成20年1月27日

調査者：神信裕（野田女子高校）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市野田町下名本町：卵のうち2個（原腸胚中期1，尾芽胚中期1）発見
- ・出水市野田町下名屋地：卵のうち1個（原腸胚後期）発見

(10) 平成20年2月2日

調査者：中間弘，渡辺剛（城西中学校），神信裕（野田女子高校），本田法玄（出水商業高校），松本勇二（垂水高校），神雅樹（鹿児島大学学生）

調査地点及び調査結果：

- ・出水市野田町下餅井：卵のうち3個（神経胚1，尾芽胚2）発見
- ・出水市高尾野町江内 <発見なし>
- ・阿久根市脇本八郷 <発見なし>
- ・阿久根市脇本小漣 <発見なし>
- ・出水市野田町久木野 <発見なし>
- ・阿久根市多田大下：卵のうち5個（原腸胚初期2，神経胚1，尾芽胚2）発見
- ・阿久根市鶴川内桑原城：卵のうち1個（原腸胚初期）発見

2 一般からの目撃情報

これまでの調査地である阿久根市大下と阿久根市折口鍋石から目撃情報が寄せられた。

- (1) 阿久根市大下：大下はこれまでに調査して成体を発見した場所のすぐ横の民家で，平成19年3月8日に鉢の下から成体を発見したというものであった。通常の生息域のすぐ脇であることから，そのまま元に戻しておいてもらうように依頼した。
- (2) 阿久根市折口鍋石：折口鍋石は，これまで調査

はしたものの発見には至らず，次回以降の調査に託されていたところであった。平成19年8月5日に地域の側溝の泥上げ作業があり，このときに泥の中から数匹が発見されたという。これらはすぐに泥と共に近くの水田の畦に移動されたと，8月7日に連絡があった。この発見によって，確認できた分布域の西端が更に西に移動したことになる。

3 聞き込みによる過去の生息情報

本田法玄，神信裕両氏が出水市周辺で聞き込みを行い，以下の情報を提供していただいた。

- (1) 鍋野川支流の流合川付近の山中で土を掘ったら出てきた。
- (2) 数十年前に高川ダム付近で捕獲して食べた。
- (3) 出水市高尾野町麓に，40年前にはいた。
- (4) 阿久根中学校の近くの牟田（湿田）に昔いた。
- (5) 阿久根市脇本（松ヶ根～大淵川）に池があって，昔そこにいた。
- (6) 平成18年9月に野田女子高校の側溝にいた。

これによると，現在では生息を確認できない旧出水市地区と阿久根市の高松川以南の地区でも，かつてはカミサンショウウオが生息していたことがわかる。しかし，これまでの3年間でかなり徹底した調査を行ったにもかかわらず発見できないことから，この地域の個体群は消滅している可能性もある。

おわりに

これまでに行った調査で，カミサンショウウオの生息域をほぼ確認できたと考える。新発見の生息地は阿久根市折口鍋石と出水市野田町下名本町である。調査に協力していただいた方々にこの場を借りて感謝申し上げる。調査はこれで終了したわけではないので，今後も継続していきたい。

今後の調査方法について，野田女子高校の神先生より重要な示唆をいただいた。現在生息に適するような環境があっても生息していない地域については，出水平野の古地理と比較すると理由が分かるのではないかということである。例えば出水市高尾野町江内周辺はカミサンショウウオが生息していてもおかしくない環境であるが，ここは江戸時代まで海であったという。こうして考えれば，現生植生だけで生息域を見るのではなく，古地理との関係を念頭に調査をすることも大切になる。今後の調査では，地質・古地理と生息域の関連を調べてみたい。

また，これまでの調査で感じたことは，丘につながる田があるという生息に適した環境が出水平野に

はまだ多く残されている。しかし、排水路の整備によって冬場に水のない田がほとんどになったこと、耕作が放棄されて荒廃した田が増えたことなど、カスミサンショウウオの生息にとって決して楽観できる状況にないことは確かである。現在残っている生息地を保護するためにも、ホームページ等の各種メディアを使った広報や行政への相談、調査等とおした地域住民への協力の呼びかけなど、様々な方法を用いて環境保全を訴えていくことが大切になろう。